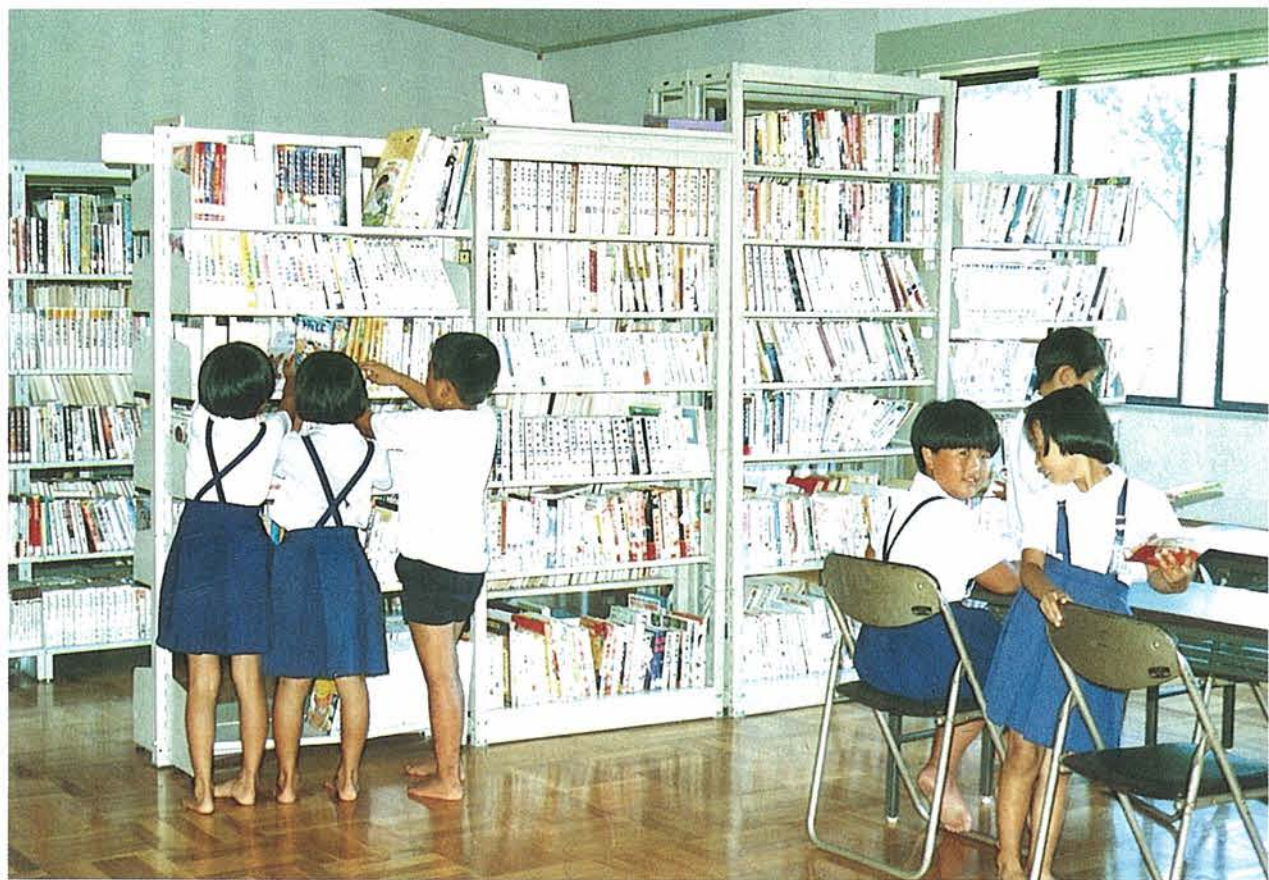


発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話(78)3111代
印刷所 旭印刷
電話(水俣)4101番

津奈木



『図書館の活用を!!』
◎読書の秋を生かして
暑い日々もようやく過ぎようとしている。いよいよ読書の秋である。文化センターの隣りにある資料館の一室に津奈木町の図書館が間借りして、細々ながら文化の香りをにおわせようとしている。今小学生が主に借りて読書しているが、町民の方々の大いなる活用をお願いいたします。蔵書も約九千冊準備され、毎年新刊書も購入されています。もともとと利用されて、緑と彫刻のある町と共に、豊かな情操と生活の糧にしてほしいものです。町民の皆様の本の利用を切に願うものです。是非一度足を運んで御来館下さい。

一言
本町は海岸地帯を主に、果下を代表する甘夏ミカンを中心とする果樹地帯である。果樹の生育の良し悪しが住民の生活に直接かわりを持つ。昨年は百年に一度と言った冷夏、長雨、台風と言った気象災害に見舞われた。果実は大量に落果し、残った果実は長雨で品質が低下、商品価値の低い果実が六〇%程しか収穫出来なかった。当然所得も激減し農家の生活を直撃している、そのようなことから、各農家の今年にける期待と意気込みは実に大きなものが有った。処が本年は、又百年に一度と言うような大干魃に見舞われている。天はどうしてこのように気まぐれなのか、何もかも焼きつくような太陽を仰いで出るのは溜息ばかりである。最近阿蘇の高原野菜の生産者とお会した。今年の野菜の出来はどうですかと聞いてみた、その人曰く、昨年は長雨と冷夏で根腐れをおこして全滅、今年は天気が良すぎて野菜が育ち過ぎ市場価格が暴落して出荷しても手間賃も出ないとの事である、二年続けて収穫0ですと話された。この話を聞いて辛いのは自分達だけではない、阿蘇の方には気の毒だがホッとした気持ちになった。これからは気を取りなおし恵みの雨に期待し年々農作業にはげみたい。(F・S)



庁舎美術館(55)
油彩
「メニールモンタン」一九六四
境野一之作
どんよりと重く垂れこめる灰色の雲。無声映画の中で見たパルトラマンの前では、老人が、日がな一日道行く人を眺めている。細い路地をはさんでお向かいのおかみさん同士がにぎやかな笑い声を上げている。フランス語でやっは良くわからないが、どうも亭主の愚痴らしい。・いづれも同じ。



町民の生涯学習の一環として「住みよくなる町づくり」を目指し七月十六日から九月十八日まで十八回午後七時三十分〜十時まで粘土彫刻講習会を幼稚園横の美術教室で行っております。指導者は皆さんごぞんじの川上順一先生です。参加者は十一名ですが川上先生のユーモアたっぷりの御指導に皆さん楽しそうに取組んでおられました。



（試合の結果）
優勝（くまさんチーム）
鳥居、山本、竹永
準優勝（エリチーム）
野崎、小島、上野えり
三位（あーみチーム）
上野、橋本、嶋田、上野あみ
三位（パンダさんチーム）
新立、宮島、白坂みほ
個人戦 優勝 新立和輝
初心者 優勝 下田睦子

（町民体育祭競舟大会）
熱戦 大泊地区連続優勝
参加 22チーム



干拓堤防（四百メートルコース）



去る八月十五日今年度初めて干拓堤防で町民体育祭競舟大会が行われました。

野球大会は台風接近で中止。競舟会場は思ったより素晴らしい会場、スタートからゴールまでよく見ることができ、選手達の熱気が伝わってきました。もちろん観衆も地区の舟がテントの前を通過するときは大きい声をだして「頑張れ頑張れ」と体をのりだして応援しておられました。●優勝・大泊、2位・平国下、3位・小津奈木（会場が始めての場所でしたので、皆さん方に色々とお迷惑をおかけしたと思います。おゆるください。）二十五名の参加で勝ち負けにこだわらず成人男女から子供までまじったの試合

楽しく
いい汗かいた一日

毎年行っている卓球協会会長杯大会を先ほどB&G体育館にて開催しました。

公民館モデル地区指定

◎公民館活動による地域おこしを!!

昨年に続き本年も公民館活動を活発に運営し、十分に地域の活性化を図るため、モデル地区公民館を二地区にお願いしました。忙しい中に心よくお引き受けいただき実動に移りました。これが起爆剤になってさらなる発展を願っています。

◎染竹公民館

(1)活動テーマ
伝統行事とスポーツを通して親睦を図り活性化をめざす。

(2)活動の努力点
①伝統行事の活性化に努める。
②活動の努力点
③心のふれあう挨拶、小さな親切の推進に努める。
(3)年間計画に従って実践する。

◎内野公民館

(1)活動のテーマ
地区民の融和と健康増進をはかる。

(2)努力点
①運営委員を中心に活気に満ちた地域づくりに努める。
②国民の祝日には国旗を掲げましょう。
③心のふれあう挨拶、小さな親切の推進に努める。
(3)年間計画に従って実践する。



発表会出場者

町童話発表会

童話に親しみ創作活動を活発にする機会を与え、読書意欲の向上を図り、豊かな人間性を育成するという趣旨のもとに本年も各小学校から選ばれた、十二名の児童による発表会がもたれました。

町生活会議推進協議会

生活会議というのは本来、住民の気付きを皆んなで考えアイデアを出し合い実行することにある。自分達で出来ることは先づ実践し、自分達の地域は自分達で作ろうと一人ひとりが一生懸命になることだそうである。

本町では、生活会議推進協議会が結成されていて、町民の生活向上に一役買っている。先日町民の関心の深い冠婚葬祭について、三回にわたって話し合われ、生活改善実践目標を決定しました。

八月一日に各家庭に配布されたパンフレットです。この目標に向かって努力してみよう。

今後は継続的に見なおしながら推進しようということですから、



熱の入った討議

意見を地域ごとに出してもらい、より立派なものにしていけば、豊かな無駄の少ない、暮らし良い町に発展していくのではないのでしょうか。

赤崎婦人会活動

毎年行なっている(本年二十六回目)赤崎校区婦人会による赤崎地区全学区の海岸清掃作業を行いました。校区婦人会活動として、全家庭に呼びかけ「にがきから焼却場」までの海岸を、子供は学校周辺を分担して、美しい海岸になるよう早朝七時から正午まで汗を流しました。おかげできれいな海岸になりました。



活発な実習風景

あけぼの学習会実習

生涯学習の一環として高齢者を対象に「あけぼの学習会」を開催し、各地二・三回の学習を実施しました。皆さん熱心に講義を受けられほんとうに心強く思いました。特に文化センターで行なわれました「病人(老人)の看護の実習では、講師の先生の指導もさることながらお互い同志和気あいあいの中で実習ができました。お互いが助けたり助けられたり非常にためになりました。今後も頑張ります。



なんて恐ろしい話なのだろう。読むのをやめればこの恐怖からのがれられるかもしれない。こんな事を考えながらも、私はこの本を一度も閉じることなく読み終えてしまった。

読書感想文

『変身』を読んで

津奈木中 2年 岩崎 ミロ

結局、家族に邪魔者あつかいされていた彼は、父親にりんごを投げつけられてできた傷が原因で死んでしまった。そして、父親、母親、妹の三人は、暖かい日差しの中、電車で久しぶりに郊外へ出かける……。

なんて冷たいラストだろう。それでも、グレゴールの死により肩の荷が降り、これから幸せになろうとする家族。これも一種のハッピーエンドなのかもしれない。

私は、この話がノンフィクションのように思えてならなかった。日常生活の中の何気ない不安やいら立ちで人間に嫌気がさすと、人は毒虫に変身するのかもしれない。

ここに、こんな人が……

養殖漁業に生きる

長濱大三(平国上)
第一次産業は後継者不足に悩むなかであつて、その「悩み」もなさそうである。今回は家業の養殖業を見習っている長濱大三(二十才)さんを訪問しました。大三さんは常雄さんの長男で、大学を卒業と同時に父さんの仕事を手伝うようになつて二年余りたつてゐる。その魅力と苦労



頑張る長濱大三さん

を尋ねてみました。
好きな海で仕事ができるが、日曜・祭日も毎日夜明けを待つて海に出て、タイ・フグ等の魚にエサをやるのが仕事です。朝起き

つくづく意志の弱さを痛感した。こんな私に転機が訪れました。

昭和五十六年八月父の突然の死である。数々の親不孝……。

私にとって一番残念で悔しい父の死でありました。そして一年、当然の如く父の後継者問題が浮上した。色々の方々からの要請。今

腕田坊主からの政治の道へ

川崎 尊 深

まで父を支えて頂いた人達に、他の人をお願ひしたが、父の跡は子供にということであった。私自身、前述のとおりその資格もないし、また関心もなかったし自信もなかった。当然お断りした。だが、周囲の人達の強いす

めて決断せざるを得なかった。勿論自分にこの仕事があるか日々悩んだ結果である。昭和五十八年四月の選挙で見事当選させて頂き、これから議会人としての人生が始まりました。この十二年間色々の事を勉強させて頂きました。特に「緑と彫刻

外に知られるようになりまし。新幹線と西回り自動車道の早期完成の声が日々高まって参りました。完成すれば確かに便利になるでしょう。しかし便利になればなるほど一つの通過点になつてしまふんではないかとの懸念もありま。その通過点にならないために、まだまだ町づくりに必要です。温泉センターで終りではありませ。潤いのある町にするため老若男女集える施設、特に女性や子供を対象とした施設を整えなければなりません。津奈木出身の若者が県内外からUターンして来て、津奈木を興すようにするため。議会の雰囲気も以前と違つてきた。尚一層頑張らなければと思つ。ここにちである。

わが町の文化財石造物(4)

孝行は誰もが心の奥そこに秘めた人間のやさしい心がある。唯、行か行かないかは人それぞれである。



老女千代の墓

縦65cm 横35cm
坂本釋尼妙専
延享元子天十二月六日

又、千代塚の碑一基に親につかうの誠は自ら聖の教へに叶へり、ここに於いてつら／＼おもひ見れば皆人の本心はあしからず、難波の事も何のうたがひもあらん、此塚をきづき夫がほとり此の始終をかく。人の誠を世にあらわしぬるは教への道をしれりといふべし、深く此の塚に心をとおく、身に順りみるべきことになん。

嘉永三年四月十八日
橘 是谷謹而記
佐々木 緑

短歌

宮崎 優選

乾きたる蒨田にしみしエンジンの音のみ響く夕焼けの空
永田清子
胸深くしまひおきたる自分史を夏の夜空に読みあげてみる
柳迫いづも

大阪の駅で写りし妹は逝きて記念の額におさまる
福田八重子
十二畳を藤の表に敷き替えて心はすがし年回を待つ
白浜美和子

病院の待合室に知る人の呼名を聞きてそれとなく見る
西滋子
たまさかに訪いぬ細りし父の手に温み通わせ爪切りにけり
寺本ツルヲ

早苗田を吹きくる風に真向かい

肥後狂句

汗ばみし肌しばし冷やさむ
野田浦子
新緑のかげよう庭の葉がくれに響報の如く雨蛙鳴く
鳥井保

生くるもの猛暑に喘ぐ死すもあり雷鳴遠く雨はいづくぞ
宮崎優

手に汗 孫がせりあい走つとる
雲波
手に汗 発表までは落ちつかん
神無月

手に汗 はよ走らんか越さるつぞ
万葉
買いすぎて月賦に往生しとります
〔次笠〕胸算用、うち忘れ
一笠二句づつ 十月十一日まで
つなぎ文化センターへ。